

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902132		
法人名	医療法人 臨生会		
事業所名	グループホームそよかぜ館アネックス A棟		
所在地	北海道名寄市字緑丘11番地23		
自己評価作成日	平成26年1月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902132-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所にあり、夏場は畑で収穫した野菜を、その日の献立にするなど、家庭的な生活を過ごしております。季節ごとに行事を行い入居者に季節を感じてもらえるよう努めています。平屋一戸建ての為、各ユニットの入居者、職員が常に交流出来ることで職員全員が入居者と馴染みの関係を築いております。同一法人に病院、歯科、老健、ケアハウス、居宅介護支援事業所があり、常日頃から連携をとることで、その人がその人らしい生活を過ごせるよう、法人が一体となって支援できる体制をとっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

＜働く職員の就業環境の整備＞

職員が安心して働きやすいように法人に保育園を併設するなどして、職員の離職率は低く、継続したケアサービスを提供している。また、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、労働時間、資格取得への支援、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。

＜地域との協力的体制づくり＞

事業所主催のお祭りや文化祭等のイベントに地域の人々が参加できるように案内を出して呼びかけたり、名寄市、町内会と協力して高齢者徘徊捜査模擬訓練を共催するなど地域との協力・連携に取り組み、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念・アネックス理念・地域理念を事業所内に掲示し、毎朝のミーティング後に声を出して読み上げることで職員全員が共有し、介護の実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、具体的な年間目標を掲げ、朝礼時やミーティングを通じて共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや文化祭等地域のイベントや行事にはなるべく参加し、地域の方々と交流してきている。	事業所主催のお祭りや文化祭等のイベントに地域の人々が参加できるように案内を出して呼びかけたり、名寄市、町内会と協力して高齢者徘徊捜査模擬訓練を共催するなど地域との協力・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、事業所の活動内容を報告するなど町内会長と連携し、お互いに協力できることを話し合い、検討してきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・町内会長・市職員に参加していただき、毎回施設の取り組み状況を報告し、話し合いの中で意見交換し、今後のサービス向上に努めている。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、行事予定や火災避難訓練など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で市担当者に施設のサービス状況や空室・待機者状況を報告している。また、生活保護の担当者とも連絡を取り、協力関係を築いている。	名寄市と協力して高齢者徘徊捜査模擬訓練を共催したり、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、玄関の施錠も行わないよう取り組んでいる。夜間は防犯の為施錠している。見守りを強化することで、離設による事故を防いでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で一番あってはならないことと話し合い、言葉での虐待もないよう注意してきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修会がある場合は出来るだけ参加できるよう心掛けている。また市職員に助言を頂けるよう協力関係を築いてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に一度施設見学を行ってもらい、パンフレットや入所資料等で施設の概要を説明している。入所時にも契約書の内容を十分に説明し、理解してもらい入所して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は、こちらから声を掛け、最近の生活状況を報告することで家族からの要望を言いやすい環境に努めている。利用者とは個室で話すことで不安な事を話してもらい、その都度職員で話し合い改善している。	家族等が来訪し易いような環境づくりや家族の抱える悩みや相談に応じたり、意見や要望など言いやすいように話し合う機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、行事参加の様子や日常生活の様子など定期的に情報提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや会議の中で、職員から意見を聞き、より良い施設作り反映させている。	ミーティングやカンファレンス等を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	職員一人一人の能力を向上させ、認知症介護に自信が持てるよう研修等への参加を促したり、働きやすい環境を作り、施設全体の機能向上を図るよう検討しているので、その実践に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修案内等は職員に見てもらい、自主的に参加を促している。資格取得についても、積極的にバックアップし、試験日までの勤務調整を行い、落ち着いて受験できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や、施設内での役割に応じて研修等に参加してもらっている。資格取得についても積極的に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる研修会に参加する事で、同業者との交流を図り、意見交換を行うことでサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談において、本人から施設生活での希望を聞き、安心して生活して頂けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談において、家族からの希望や意向を聞き、要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番必要な事を第一に考え、介護計画を立てている。住み慣れた地域の知人や友人に連絡を取るなどして安心して生活が出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度や片付け、掃除や洗濯干しを一緒に行ったり、レクリエーションや行事と一緒に参加している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況や状態を報告し、家族からも話しを聞くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人と連絡を取り合ったり、いつでも面会に来れるようにしている。馴染みの床屋や歯科などにも通えるよう努めている。	散歩や地域のお祭り等の行事参加や馴染みの床屋の訪問支援や町内会の新年会や食事会に参加するなど馴染みの人や場所の関係が継続できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や食堂で利用者同士で会話を楽しんでいる。たまに職員も間に入り一緒に会話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの電話相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で本人に希望や意向がないか確認し、カンファレンスで話し合いを行っている。	センター方式を活用して、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、職員と一緒に百人一首やカラオケ、身だしなみやお洒落をする等、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族にアセスメントシートへの記入をお願いし、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のサービス提供書、経過観察表を日々記入し現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月又は6ヶ月でカンファレンスを開き、評価を行い、話し合いをし、その時に合ったサービス介護計画を作成している。必要時に本人・家族にも同席してもらい、意見を聞いている。	本人、家族の意見・要望、医師・看護師との連携、カンファレンス、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に記録を記入している。情報を共有する為に「伝えたいこと」という用紙を使用し、1週間申し送りの時に伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外泊・外出・外食はいつでも行けるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている、展示会や発表会等を把握し、可能な限り地域に出向き、楽しんでもらえるよう心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別にかかりつけの病院・歯科医院へ受診出来るよう対応してきている。	母体医療法人の医師・看護師との連携、通院への対応で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化でも気づいた事があった時には、報告・連絡・相談を行い、すぐ対応出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、それまでの経過を「介護連絡書」に記入し、病院関係者と情報交換を行っている。入院中も病院関係者と情報交換を行い退院の予定を組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、施設で対応出来るサービスについて家族と話し合いを行っている。地域関係者と共に、出来る限り施設での生活が継続できるように取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し職員間で共有している。感染に対する訓練を研修会等で行ってきている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として月2回自主避難訓練を行っている。また年2回消防、近隣住民参加の避難訓練を行い、夜間想定訓練も行っている。	スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。また、近隣住民が参加して年2回避難訓練の実施や月2回の自主防災訓練、救急救命訓練も、緊急時に速やかに対応できる様にしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を理解し、一人一人に合った言葉掛けや、会話時の姿勢にも気を付けるようにしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように、内部研修を通じて職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、職員同士で話し合いをし、希望に添った支援を行っていけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を第一に考え、行動する事に努めている。状況に合わせて個々に食事の時間を調整したり、入浴の時間も臨機応変に対応してきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの服などを身につけている。外出前には、化粧やマニキュアを塗っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度の時、調理・料理・盛り付け・テーブル拭き・配膳・食器洗い・すすぎ・食器拭きと、食事に関する一連の作業を入居者と職員が一緒に行っている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に調理や料理、盛り付けや配膳、食事の準備や味付け、後片付けや食器洗い等している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった食事の量を出している。水分は食事以外にも飲めるよう支援している。体重の変化を把握し、カロリーの増減を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。一人一人の能力に合わせて、自立・見守り・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人経過観察表に排泄チェックを行い、時間や一人一人の動きに注意し、誘導が必要な時に誘導している。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように見守り、誘導の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動への働きかけや、食事にも気を付け、水分やヨーグルト等を個々に取り入れ予防してきている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3日置きに入浴を行っているが、いつでも入りたいと思った時に、入浴出来るように心掛けている。特に夏場は汗をかく事も多いので臨機応変に対応してきている。	週2～3を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、拒否のある本人にも対応した声掛けなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも、どこでも休息が取れるような環境作りをしている。就寝時間・起床時間もその人に合わせ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に管理を行っている。副作用や用法や用量がチェック出来るよう、服用薬品名カードを個人ファイルに閉じ、いつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみについては、個々様々なので、一人一人の生活歴を把握した上で、役割や楽しみを提供出来るよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で外に出掛ける時には全員で参加している。外食・買い物・地域の催し物等に出掛けている。	散歩や買い物、地域の行事やお祭り参加などで戸外に出かける機会を多く持っている。また、レストランでの外食や以前住んでいた町内会の新年会や食事会に参加するなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた時に、自分で支払いが出来る方には、支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時にいつでもかけられるようにしている。手紙も書きたい時に書けるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように季節ごとの飾り付けを行っている。ホワイトボードに季節ごとの行事を書き、日々楽しみを持ってよう工夫している。	採光が採りいれられて明るく、清潔感が漂い、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用の空間には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけが行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が自由に過ごせるようにしている。入居者同士でソファーに座り、会話を楽しんだり、テレビを見たりして過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた布団や椅子・タンス・衣装ケースを使っている。	居室は広く、使い慣れた家具や寝具、家電製品等が持ち込まれたり、家族の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで段差が無いような造りになっている。トイレ・廊下・浴室等には手すりが設置され安全に移動動作が出来るようになっている。何時でも時間・日にちが分かるよう時計やカレンダーを配置している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902132		
法人名	医療法人 臨生会		
事業所名	グループホームそよかぜ館アネックス B棟		
所在地	北海道名寄市字緑丘11番地23		
自己評価作成日	平成26年1月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902132-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所にあり、夏場は畑で収穫した野菜を、その日の献立にするなど、家庭的な生活を過ごしております。季節ごとに行事を行い入居者に季節を感じてもらえるよう努めています。平屋一戸建ての為、各ユニットの入居者、職員が常に交流出来ることで職員全員が入居者と馴染みの関係を築いております。同一法人に病院、歯科、老健、ケアハウス、居宅介護支援事業所があり、常日頃から連携をとることで、その人がその人らしい生活を過ごせるよう、法人が一体となって支援できる体制をとっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念・アネックス理念・地域理念を事業所内に掲示し、毎朝のミーティング後に声を出して読み上げることで職員全員が共有し、介護の実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや文化祭等地域のイベントや行事にはなるべく参加し、地域の方々と交流してきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、事業所の活動内容を報告するなど町内会長と連携し、お互いに協力できることを話し合い、検討してきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・町内会長・市職員に参加していただき、毎回施設の取り組み状況を報告し、話し合いの中で意見交換し、今後のサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で市担当者に施設のサービス状況や空室・待機者状況を報告している。また、生活保護の担当者とも連絡を取り、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、玄関の施錠も行わないよう取り組んでいる。夜間は防犯の為施錠している。見守りを強化することで、離設による事故を防いでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で一番あってはならないことと話し合い、言葉での虐待もないよう注意してきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修会がある場合は出来るだけ参加できるよう心掛けている。また市職員に助言を頂けるよう協力関係を築いてきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に一度施設見学を行ってもらい、パンフレットや入所資料等で施設の概要を説明している。入所時にも契約書の内容を十分に説明し、理解してもらい入所して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は、こちらから声を掛け、最近の生活状況を報告することで家族からの要望を言いやすい環境に努めている。利用者とは個室で話すことで不安な事を話してもらい、その都度職員で話し合い改善している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや会議の中で、職員から意見を聞き、より良い施設作りに反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修案内等は職員に見てもらい、自主的に参加を促している。資格取得についても、積極的にバックアップし、試験日までの勤務調整を行い、落ち着いて受験できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や、施設内での役割に応じて研修等に参加してもらっている。資格取得についても積極的に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる研修会に参加する事で、同業者との交流を図り、意見交換を行うことでサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談において、本人から施設生活での希望を聞き、安心して生活して頂けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談において、家族からの希望や意向を聞き、要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番必要な事を第一に考え、介護計画を立てている。住み慣れた地域の知人や友人に連絡を取るなどして安心して生活が出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度や片付け、掃除や洗濯、趣味や活動など共に行うことで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況や状態を報告し、その都度情報をもらうことで、共によりよい関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人と連絡を取り合ったり、いつでも面会に来れるようにしている。馴染みの歯科などにも通えるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や食堂で利用者同士で会話を楽しんでいる。利用者が孤立しないよう職員が間に入ることで関わりを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの電話相談を受け付けられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活を過ごしてもらう為にも、本人、家族からの要望を常に取り入れるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までに本人・家族から生活歴等を伺っている。入所してからもコミュニケーションの中で情報収集し、より良いサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやケアカンファレンスの時に、常に現状の能力を把握し、その都度、現状に合わせたサービスが提供出来るよう話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、必要に応じて、本人・家族・関係者に同席してもらい、その人らしい生活が出来るような介護計画を作成している。両棟の職員がカンファレンスに参加している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画に基づいたサービス提供状況を記録している。ミーティングやケアカンファレンス開催時には職員間で情報を共有し、その時にあった介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の施設に訪問し、他施設の入居者や職員との交流に努め、柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や催し物を把握し参加することで、楽しみある日常生活を提供してきている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の病院とは連絡を取り合い、体調不良者の相談や治療の指示を24時間受けられる体勢を取っている。必要に応じて受診し、その結果を家族へ連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、状態の変化、気づいた事を看護師に報告し、その都度観察してもらい適切な指示を受けている。24時間連絡ができる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、それまでの経過を「介護連絡書」に記入し、病院関係者と情報交換を行っている。入院中も病院関係者と情報交換を行い、早期に退院できるよう取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、施設で対応出来るサービスについて家族と話し合いを行っている。地域関係者と共に、出来る限り施設での生活が継続できるよう支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し職員間で共有している。今後は定期的に訓練を実施し、実践力を身に付けていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として月2回自主避難訓練を行っている。また年2回消防、近隣住民参加の避難訓練を行い、夜間想定訓練も行ってきている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を理解し、言葉使いにも十分に気を付けるようにしている。また話を聞く姿勢にも気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での意志決定は、なるべく本人の意向を聞き、出来る範囲で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないよう、「待つ」気持ちを持って生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容にて整容を行っている。外出時はおしゃれをし出掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、調理・盛り付け・配膳・片づけ等、分担して行うことで楽しみある食事となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量が少ない方には、ジュース等お茶以外の飲み物を勧めて飲んでもらっている。状態によりとろみを付けることで誤嚥を予防している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけは行っている。一人一人の能力に応じて、見守りや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら、確認の必要な方には声かけや介助を行い、失禁を減らすようにしている。排泄状況を日々把握することで下剤の調整を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分を多めに摂ってもらったり、運動を取り入れたりしている。それでも困難な状況の時は下剤を使用し、便秘を予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2日～3日おきに行っている。声かけし「入りたくない」と拒否があった場合は無理に勧めない様になっている。夏場は汗をかくことも多いので、曜日時間を決めず臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居眠りをしていたり、疲れが見られた時は、個人の体調に合わせて自由に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容を理解し、服薬の確認とその日に状況変化を職員が把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人趣味も好みも違うので、個々にあった趣味や娯楽を楽しんでもらって気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期は天候にもよるが、一日一回は外気浴に出よう心掛けている。冬季は希望者のみ散歩に出掛けている。またその日の希望によって、買い物等に一緒に出掛けている。行事等で外食や温泉にも出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は管理してもらっている。また施設で管理している方も、自ら支払いが出来るような場面が見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望者には電話番号を押すなどの援助を行っている。毎年自分で書ける方は家族に年賀状を出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けを、入居者と一緒に行うことでその季節を感じ取ってもらえるよう心掛けている。ホワイトボードに季節ごとの行事を書くことでより季節を感じられるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ユニットの入居者が行ったり来たりして交流できるような環境を心掛けている。食事の座席も気の合った入居者で座れるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットのみ施設で貸し出し、それ以外の家具や生活用品は今まで使用していた物を持ち込んでもらい、なるべく家庭と同じ様な環境作り心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器でいつでも好きなところへ安全で自由に移動できるよう、施設内は段差無く、廊下・トイレ内には手すりを設置している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	グループホームに馴染みの人や地域の方々が訪ねてくることが少ない。	地域の催し物を把握し、より多く外出し、地域にグループホームを理解してもらうことで、気軽に地域の方々がボランティア等に来て頂けるようにしていきたい。	・地域の催し物、行事等を把握する。 ・外出し地域の方々と交流できる機会を増やす。	12ヶ月
2	11	活き活きと働けている職員が少ない。	職員が活き活きと働ける環境を作ることで、施設全体の機能向上を図る。	・管理者は職員の意見を聞き入れやすい職場作りに心掛ける。 ・職員一人一人の能力を向上させ、認知症介護に自信が持てるよう研修等への参加を促す。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。